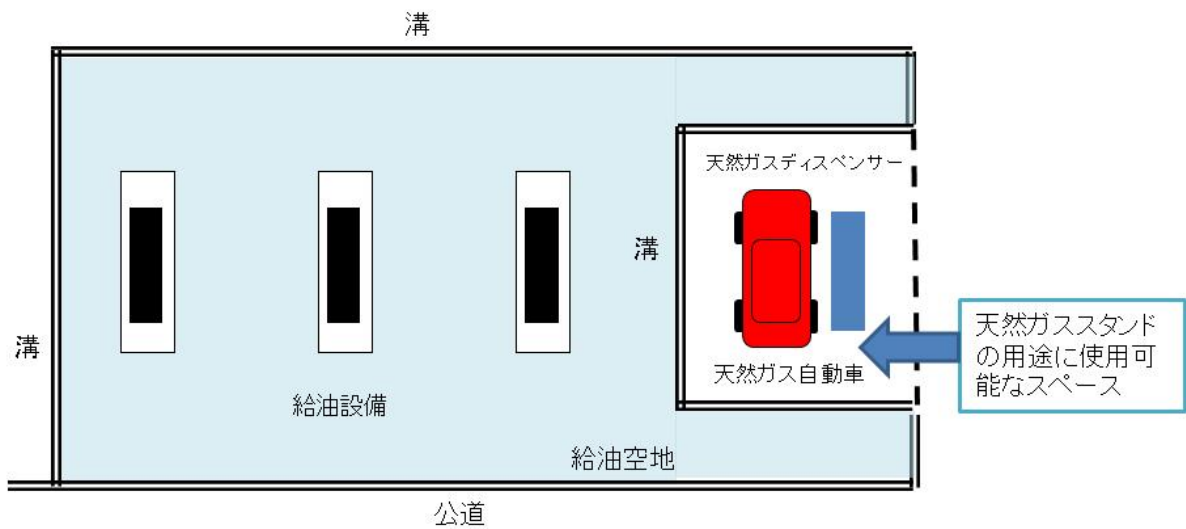


検討方針について（案）

1. 検討課題

天然ガスディスペンサーと固定給油設備を並列設置することは、現行基準において可能であるが、給油空地内に天然ガスディスペンサーを設置することはできない（給油空地と天然ガスを充てんするスペースの間には溝が必要。）。

一方、天然ガススタンドの設置推進の立場からは、市街地の給油取扱所に天然ガススタンドを併設する場合に専用の停車スペースを確保することが困難な場合もあることを理由として、停車スペースの共用化について、要望が出ている。



これを踏まえ、給油空地外に天然ガスディスペンサーを設置する（溝を設置する方法）以外に国民の生命等を損なう危険性を防ぐ方策の可能性について、更なる海外調査、危険性を防ぐ対策の基本的な考え方の整理、新技術を活用した具体的な対策の技術面や実用面等に係る検討、実際の運用や施設の具体的な状況に即した検証実験等による事故リスクに対する対策の有効性・確実性を検証する。

なお、仮に事故想定が不十分で想定外の事故により国民の生命等が損われたり、対策の有効性や確実性について十分な検討をせず不十分な安全対策により停車スペースの共用化を認めることは許されないことに十分留意する必要がある

※ 給油空地の基準

自動車等に安全かつ円滑に給油を行うために、固定給油設備の周囲に設けることとされている間口10m以上、奥行き6m以上の空地。

【給油空地として満たすべき要件】

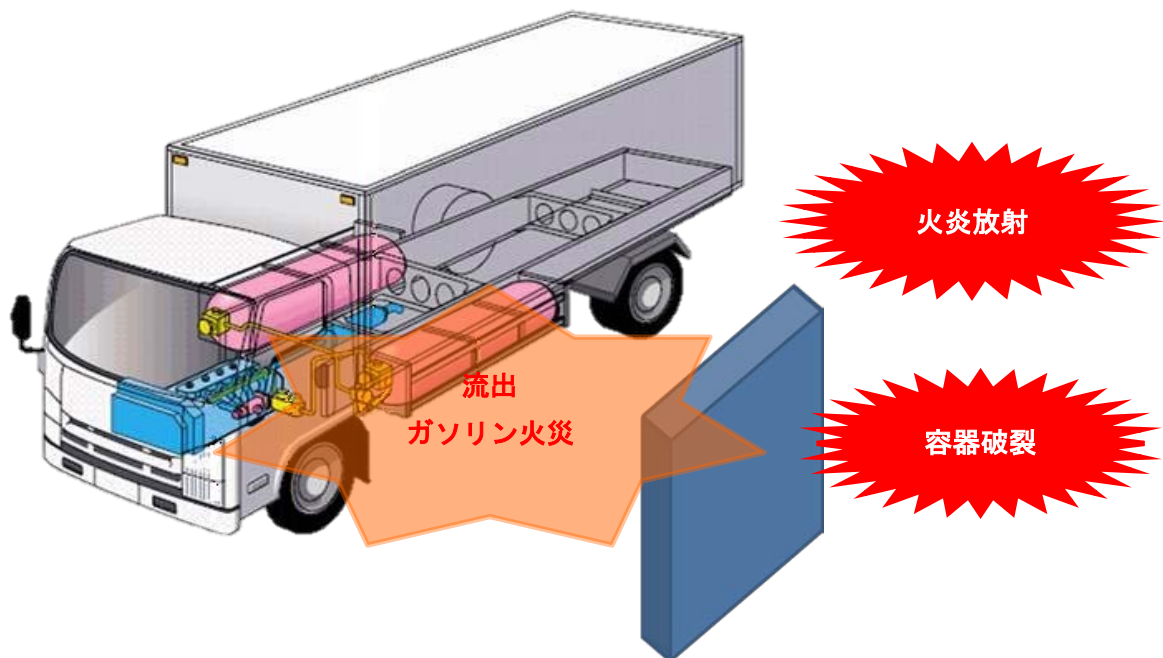
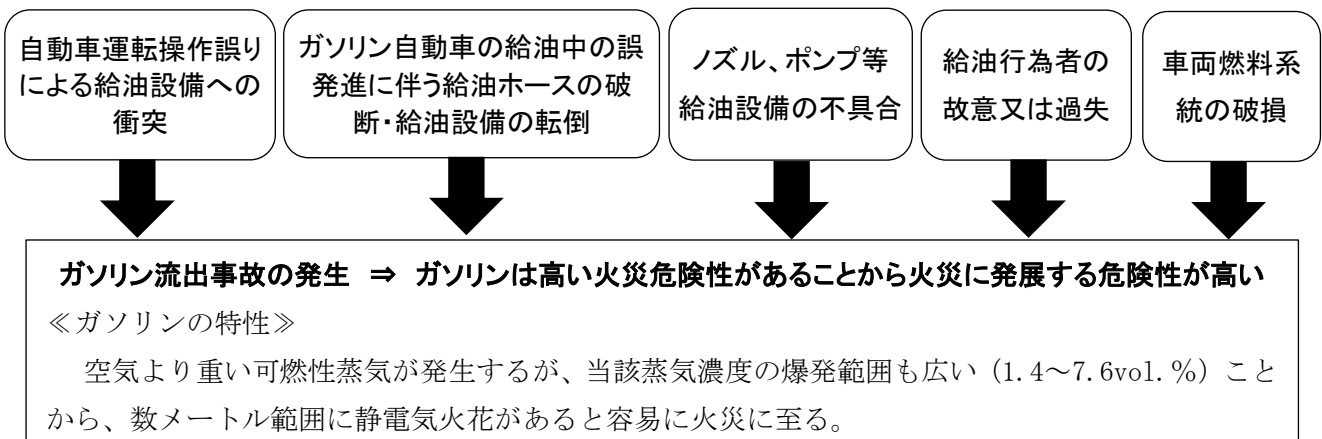
自動車等が安全かつ円滑に

- ① 出入り可能であること。
- ② 通行可能であること。
- ③ 給油を受けることができること。

2. 停車スペースを共有化する場合の危険性

給油空地内に天然ガスディスプレイを設置する場合、万が一ガソリン流出事故が発生した場合に、天然ガス自動車の下部にガソリンが流れ込んで火災を起こす可能性がある。この事故により、天然ガス自動車の高圧ガス容器が強烈なガソリン火炎で炙られた場合、高圧ガス容器の亀裂又は安全弁からの急激な火炎の噴出や、高圧ガス容器が破裂する等の甚大な被害の発生が懸念される。

<想定事故リスクの例>



3. 検討の進め方

給油取扱所内に天然ガス自動車の天然ガスディスプレイを設置する場合に想定される事故リスクに対して、事故の発生を防止するために必要な安全対策について、溝によるスペースの区分以外の方策の可能性について、過去の事例分析、海外事例の調査等を通じて検討を行う。

これを踏まえ、検討対象とする課題に関する想定事故リスクを整理・分析した後、想定事故リスクに対する対応策の検討を実施し、その効果・確実性を確認した上で、実運用に即した安全対策の具体化を図る。

<想定事故リスクの整理・分析>

過去の事故データや海外調査から事故事例を収集・分析するとともに、想定漏れがないよう、全国の消防機関に照会する。



<想定事故リスクに対する対応策の検討>

事故の発生を防止するために必要な給油取扱所に関する技術基準及び給油取扱所のレイアウト等について、海外調査で得られた海外の事故防止手法を参考にするとともに、要素レベルでの技術的な検証実験を実施し、その効果及び必要な性能を整理する。



<実運用に即した安全対策の具体化>

要素レベルで検討した対応策について、実際の天然ガススタンド併設給油取扱所の実際の運用や施設の具体的な状況に即した検証実験等による事故リスクに対する対策の有効性・確実性の検証を実施し、停車スペースの共用化に係る安全対策を具体化する。